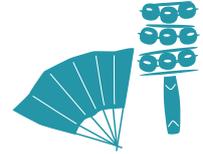


07

まつまえ かぐら

松前神楽

- 保存団体：松前神楽小樽保存会ほか
- 問合せ先：潮見ヶ岡神社（TEL 0134-22-8230）



松前神楽は、東北各地の田楽や能の影響を受け、「釜湯立^{かまゆたて}」などの神事を伴う松前藩の城内行事として17世紀頃成立しました。

城内神事を担っていた神職らによって成立したものであることから、本州以南における神楽の一般的な成立過程（いわゆる「里神楽」）とは異なりますが、地域の神社の祭礼時にも奉納されたこともあり、次第に道南の和人地に住む民衆に定着していきました。

当時の和人地の主要産業であったニシン漁は次第に漁獲高が減少し、19世紀に入る頃からは「追い鯨」の漁夫らが蝦夷地の日本海沿岸で活動をはじめ、松前神楽も彼らの手により各地に伝えられました。小樽では幕末の鯨漁場で神楽が行われていた記録が確認されており、現在でも道南を中心に、松前・函館・

小樽などの各地で伝統的な舞・奉楽が傳承されています。

演目は23の演舞を含む33の舞楽と神事によって構成されています。舞の特徴としては、神楽面を付けずに踊るものが多いこと、「手拍子」という打楽器を使うことなどが挙げられます。また、弓、剣、刀の三種を折敷にのせて4人で舞う「四箇散米舞^{しかさごまい}」など、他地域にはない、独特の舞も傳承されています。

松前神楽は地域の民俗芸能であると同時に、道南の人々が道内各地域に移住していった北海道近代初頭の歴史を物語る文化財でもあります。現在小樽では神職を中心に広く市民層からなる「松前神楽小樽保存会」によって、普及・傳承活動が続けられています。



1



2



3



4

【写真】1 山神舞 2 獅子舞 3 二羽散米舞 4 三番叟舞